



野寺小だより

1月号

たんぽぽのように やさしく つよく のびのびと
～家庭・地域とともに一人一人が輝く野寺小学校～

児童数728名
令和6年1月9日

新年のはじまりに

岡田 智彦

2024年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様、そして日頃より野寺小学校をご支援いただいているすべての皆様、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

1月1日午後4時過ぎ、石川県が震度7の地震に見舞われました。特番が組まれていたテレビも一斉にその様子を伝えるものに切り替わり、正月休みで熊本県の実家に帰省していた私も事の重大さを理解し、報道を見守りました。気象庁はすぐに石川県能登に大津波警報を発表。その後も「すぐに逃げてください」というアナウンサーの緊迫した声が絶えることなく続きました。すでに多くの方が亡くなっていますが、現地では今も救助及び復旧作業が続いているようで、被害状況は未だ把握中とのことです。去年の疲れをほぐし、これからまた新たな目標のもと一年を過ごそうという正月早々に震災に見舞われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。本校に通う児童のみなさんのご親戚にも石川県やその近隣の方、津波の被害に遭われた方や避難所で寒い思いをしながら不安な夜を過ごされた方がいらっしゃると思います。皆様のご無事をお祈りいたしますとともに、どんなに大変な状況になっても皆様の命が安全でありますように、そして必要な支援が早く届きますよう心より願っております。

かねてより危惧されている南海トラフ地震は、マグニチュード8、9クラス、30年以内の発生確率が70～80%（2020年1月24日時点の発表）、『それがいつなのかはわからないが、必ず来る』と言われていています。私にとってはまだ記憶に新しい東日本大震災は2011年だったので、それからすでに13年ほどが経過したことになり、そうすると今の小学生にその経験者はいないということになります。《天災は忘れた頃にやってくる》という戒めの言葉を思い出し、背筋が冷たくなるのを感じます。

本校の子供たちは避難訓練を真剣に行っています。先生の指示に従い、慌てず、静かに行動します。しかし、これだけでは十分ではありません。天災は上記したように、いつ、どこで、やってくるかわからないからです。大事なことは実際に遭遇した時に、状況を判断し、適した行動をとることです。子供にとってそれは《近くにいる大人に助けを求めろ》が一つの選択肢となりますが、大人がいない状況であれば、子供でもできる手段で自分の命を守る行動をとらなければなりません。子供の安心・安全を守るため、今後も安全教育に力を入れてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

決して当たり前ではなく、新年を迎えることができたことに感謝し、子供たちと共に未来に向かって歩いていければと思います。2024年が皆様にとって、野寺小学校にとって、健康で穏やかな一年となりますことを強く願ひます。